

令和4年度文化庁委託事業
「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(九州地域)」開催要項

- 1 事業名 地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(九州地域)
シリーズ講義 『文化』を越える文化施設
- 2 趣 旨 劇場・音楽堂等の職員を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
劇場・音楽堂等の職員を対象として、施設の管理運営を行う上で直面している課題について専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
- 3 主 催 文化庁・公益社団法人 全国公立文化施設協会
- 4 開催日 令和4年9月29日(木)～9月30日(金)[2日間]
- 5 会 場 メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) イベントホール
〒880-8557 宮崎県宮崎市船塚3丁目210番地
電話 0985-28-3216
- 6 日程及び内容 別紙のとおり
- 7 受講者 (1) 劇場・音楽堂等に勤務する職員(指定管理者及び劇場・音楽堂等の管理・運營業務等を受託している企業等からの派遣職員も含む)
(2) 地方自治体の文化芸術行政担当職員及び劇場・音楽堂等施設関係者
(3) 民間の舞台技術関係者、大学等の高等教育機関・舞台技術やアートマネジメントの教育関係者・学生等、また関心のある市民等
- 8 申込方法 参加申込書に必要事項をご記入の上、提出してください。
- 9 申込期日 令和4年9月2日(金)
- 10 連絡・問い合わせ先
那覇市パレット市民劇場 担当:大城 由里
TEL:098-869-4880 / FAX:098-869-4883
E-mail: no1-gekijou@palette-naha.jp

令和4年度文化庁委託事業

「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(九州地域)」開催要項

日程・内容

日 程: 令和4年9月29日(木)～9月30日(金)

会 場: メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) イベントホール

日 時	科目	内 容	講 師	
9/29 (木)	12:30～ 13:00	受 付		
	13:00～ 13:10	開講式	・部会長挨拶 美底 清順 (那覇市パレット市民劇場 館長) ・開催館挨拶 高林 宏一 (メディキット県民文化センター 副館長)	
	13:10～ 14:20	講義Ⅰ	シリーズ講義『文化』を越える文化施設① 「社会包摂 これまで これから」	講師: 公立大学法人 沖縄県立芸術大学 音楽学部 沖縄文化コース 教授 谷本 裕
	休憩(10分)			
	14:30～ 15:40	講義Ⅱ	シリーズ講義『文化』を越える文化施設② それぞれの「社会的包摂」 ー「敷居の低い音楽堂」と「バリアフリー能」	講師: 横浜市芸術文化振興財団 横浜音楽堂 芸術監督 中村 雅之
	休憩(10分)			
	15:50～ 17:00	講義Ⅲ	シリーズ講義『文化』を越える文化施設③ お芝居は、「春」取り戻す特効薬 鮮烈デビュー！ 上越シニア劇団の挑戦	講師: 上越文化会館 館長・芸術監督 斉藤 美代子
17:00～ 17:15	【番外】 PR	九州沖縄から発信する、公立文化施設の 「新しい人材育成と連携のカタチ」 ファミリー向け公演 九州沖縄ネットワークプロジェクト(仮称) 参加呼び掛け	全国公文協事業環境部会プロジェクトチーム 「子ども大人も楽しめる良質なファミリー向け事業 のツアー方法」九州沖縄ネットワークプロジェクト(仮 称)発起人: 久保田力(サザンクス筑後 公益財団法人 筑後市文化振興公社事務局長)、 崎山敦彦(那覇文化芸術劇場なはーと 総 合プロデューサー)	
9/30 (金)	9:00～ 9:20	受 付		
	9:20～ 10:30	講義Ⅳ	シリーズ講義『文化』を越える文化施設④ もっともっと、面白く。 ナンバーワン公民館の、ひと・工夫	講師: 那覇市若狭公民館 指定管理者 NPO 法人地域サポートわかさ 館長 宮城 潤
	休憩(10分)			
	10:40～ 11:50	トーク セッション	スマホ必携 客席巻き込むパネル討議 「制度」よりも大切なこと プロデューサー 社会の見方・考え方	パネリスト: 中村 雅之、 斉藤 美代子、宮城 潤 司会進行: 谷本 裕 (質疑応答を含む)
	11:50～ 12:00	閉講式	・部会長挨拶 ・次期開催館挨拶(宝山ホール: 鹿児島県)	

【内 容】**〔講義Ⅰ〕『文化』を越える文化施設①****「社会包摂 これまで これから」**

講師：公立大学法人 沖縄県立芸術大学 音楽学部 沖縄文化コース 教授 谷本 裕

今回の研修では、全体テーマとして劇場、音楽堂等における「社会包摂」の現状と課題を取り上げます。文化芸術基本法や劇場法などで理念的に示され、館が手掛けるべき事業として、この理念に基づくメニューが求められるようになってきました。「文化」事業に留まらず、福祉や医療、教育、町おこし等に資するプログラム展開が求められているところです。

ただ、この言葉が生まれる前からそうした営みは劇場などで行なわれてきました。この理念が「公共」の民営化・委託化の動きと共に求められるようになった経緯から、一筋縄で論じにくいテーマでもあります。でも住民市民の福祉向上に資する営みであれば、それはそれで価値はありましょう。また、効果あらしめる環境整備につき確認の必要もありましょう。

「社会包摂」の概念整理や導入の経緯、取り組みの根拠、音楽堂や劇場の取り組み状況などを伝え、また課題にも触れた後、現場で奮闘する方々の熱いお話へと、繋げます。

〔講義Ⅱ〕『文化』を越える文化施設②**それぞれの「社会的包摂」ー「敷居の低い能楽堂」と「バリアフリー能」**

講師：横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂 芸術監督 中村 雅之

横浜能楽堂は、開館当初から、「敷居の低い能楽堂」をテーマに事業を展開して来ました。横浜能楽堂は、伝統芸能の専門文化施設であると同時に公共文化施設でもあります。公共文化施設としては、従来から伝統芸能が好きな人だけでなく、幅広い人たちに足を運んでもらわなければなりません。それを実現しようと掲げたテーマでした。

テーマに従い、様々な事業を企画・実施して来ました。その中で、象徴的であり、今も続けているのが「バリアフリー能」です。このような活動が、最近では「社会的包摂」と言われるようになりました。

「社会的包摂」のあり方は、それぞれの地域や施設が置かれている状況・条件によって違い、一つと同じものは無い、と言っても過言ではありません。それぞれの施設ならではの「社会的包摂」を考えていただく参考にさせていただきたいと思います。

〔講義Ⅲ〕『文化』を越える文化施設③**お芝居は、「春」取り戻す特効薬 鮮烈デビュー！上越シニア劇団の挑戦**

講師：上越文化会館(新潟) 館長 斉藤 美代子

2021年7月“「上越シニア劇団」旗上げ”というニュースが地元新聞の一面を飾りました。

館長の言葉や、劇団員の決意表明が華々しく紹介されました。51歳から70歳までの10人の船出です。ン？51歳ってシニアか？まー、いいか。これまでの人生には無かった演技や合唱の稽古、柔軟体操は劇団員たちの生活に張り合いをもたらしました。

一方、劇団というのは幅広い世代が参加し、演劇の表現をよりリアルにした方が効果的ではないかという意見もありました。確かに、より質の高い舞台になると思います。しかし、シニア世代が生きがいと仲間づくりのできる場を提供するのが、文化会館の役割ではないかと考えました。2022年3月「シニア劇団」は初舞台を踏みました。この成果を元に、11月には音楽劇に挑戦します。歌って踊って台詞を言う、シニアの次の挑戦です。

〔番外 PR〕九州沖縄から発信する、公立文化施設の「新しい人材育成と連携のカタチ」
ファミリー向け公演九州沖縄ネットワークプロジェクト(仮称) 呼び掛け

全国公文協事業環境部会プロジェクトチーム

「子どもも大人も楽しめる良質なファミリー向け事業のツアーの方法」

九州沖縄ネットワークプロジェクト(仮称)

発起人:久保田 力(サザンクス筑後 公益財団法人筑後市文化振興公社 事務局長)

崎山 敦彦(那覇文化芸術劇場なはーと 総合プロデューサー)

九州・沖縄の中小規模のまちの公立文化施設で、事業に携わっている皆さん。今から手を取り合い、それぞれの館を巡回する、ファミリー向けの舞台をつくってみませんか。

開催費用の確保や企画制作にかかわる様々なケアやアドバイスは、全国公文協の組織力を活用し、サポートできる体制を私たちはつくりあげようと模索を始めています。公立文化施設の活動シーンは、従来大都市の基幹ホールを軸に築かれてきた感もありますが、「一寸の虫にも五分の魂」。新しい連携により、文化・芸術に携わる人材が育つ「地方の時代」を一緒に切り拓いていきましょう。まずは、運営準備に向け ZOOM 会議にご参加ください。

〔講義IV〕『文化』を越える文化施設④

もっともっと、面白く。ナンバーワン公民館の、ひと・工夫

講師: 那覇市若狭公民館 指定管理者 NPO 法人地域サポートわかさ 館長 宮城 潤

那覇市若狭公民館は、沖縄有数の歓楽街を含む那覇市西部にあります。私は非常勤職員として勤務を始め17年間、シングルマザー向け子育て講座や、地域の外国人向け交流イベント、子どもの文化体験の機会や居場所づくりを意識した教育事業など、地域課題に寄り添うさまざまな活動に取り組んできました。「地味」な印象をお持ちかもしれませんが、公民館には適当な施設設備のほか、少ないながら事業費があり、有給の常勤職員もいます。全国には約1万4千館もあり、地域づくりに大きなポテンシャルを持っています。施設の使命を理解し、行政や住民と信頼関係を築きながら、丁寧な「工夫」を重ねることが求められます。活動で感じた思いを、文化施設の皆さんにお伝えしたいと願っています。

〔トークセッション〕 スマホ必携 客席卷き込むパネル討議

「制度」よりも大切なこと プロデューサー 社会の見方・考え方

パネリスト:中村 雅之、斉藤 美代子、宮城 潤 司会進行:谷本 裕

前日の各講師による講演、事前の事例報告を踏まえ、劇場や音楽堂などのマネージャーやプロデューサーは、どのような知識・センスやスキルを身に付けていくべきなのか、また、そのようなスタッフを劇場の運営者、さらに設置者は、一体どう支えていくべきなのかを語り合いたいと考えています。劇場法の定める第3条〔事業内容〕を満たしていくためにも劇場・音楽堂等の果たす機能とスタッフ像、採用や、研修などの教育訓練はどう変わっていくべきなのか。将来的な資格、また運営者、設置者のあるべき姿も含め、各講師の方々のご意見を伺う一方、参加される客席の皆さんのご意見を適宜、携帯端末などを通じてデータとして活用し、登壇者や来場者と共に考える機会と出来れば幸い。皆様、どうかスマホを、お忘れなく！！